

忍具

くない

忍者は、石の隙間にくないを押し込んで壁を登る際に使用しました。くないは穴を掘るためにも使用され、また、くないの柄にある輪に縄を結び、地面に刺して固定することもできました。くないは鉄製で、長さは 45 から 60 センチメートルです。

坪錐

つぼぎりは鉄製で、柄はオーク材で作られており、長さは 18 センチ。小型（鉄部分、4.5cm; 柄、13.5cm）と大型（鉄部分、6cm; 柄、12cm）の 2 サイズがありました。忍者はこれを使って、ドアに穴を開けて手を差し込み、鍵を開錠することができました。

撒菱

撒菱は鉄または竹製で、6 センチの竹片を十字に結びつけて作られました。忍者は家に入る際に撒菱を床に撒いていました。室内では靴を履かないため、忍者が逃げる間に追手を遅らせるのに効果的でした。また、撒菱を縄に結びつけて引きずり、敵をつまづかせることもできました。

鉤縄

鉄製の鉤を鉄の輪で束ね、約 4～5 メートルの麻縄に結びつけて打鉤を作りました。忍者は、石壁を登ったり、高所に到達したりするためにこの鉤を投げました。また、捕獲後に人を拘束したり、他の人が入るのを防ぐために扉を固定したりするためにも使用しました。

印籠

印籠の外装は漆塗りの木材や和紙で作られており、内部には 2～5 つの小さな仕切りがありました。持ち運びのために、両側に 2 つの穴が開けられ、紐が通されています。忍者は、重要な任務の際に胃痛を和らげる薬草などを印籠に入れて持ち運びました。

石筆

細い銅製の中空の柄に、蓋付きの墨容器が取り付けられていました。忍者は柄の中に細い筆を収納し、墨と綿を容器に保管していました。彼らは、任務中に重要な情報を記録するため、この携帯用の石筆を持ち運んでいました。

手拭

この布は蘇芳染めで色付けされました。忍者はこれを様々な方法で使用しました：首に巻いたり、汗を吸収するために頭に巻いたり、顔を覆ったり、着物の帯の長さを延ばしたり、登る

際に自分を引き上げるために使用したりしました。

五色米

準備：食用の顔料を使用して米を青、黄、赤、黒、そして白に染めました。忍者は 4～5

人の小さなグループで協力して活動しました。彼らは、後続く仲間のために道しるべとして五

色米を落としました。米は、忍者が家に帰る道を見つけるための目印として、また、あらかじめメ

ンバーと共有されたコードを作成するために使われました。たとえば、青い米は「右折」を、赤い

米は「左折」を意味する、といった具体的な意味が各色に割り当てられました。